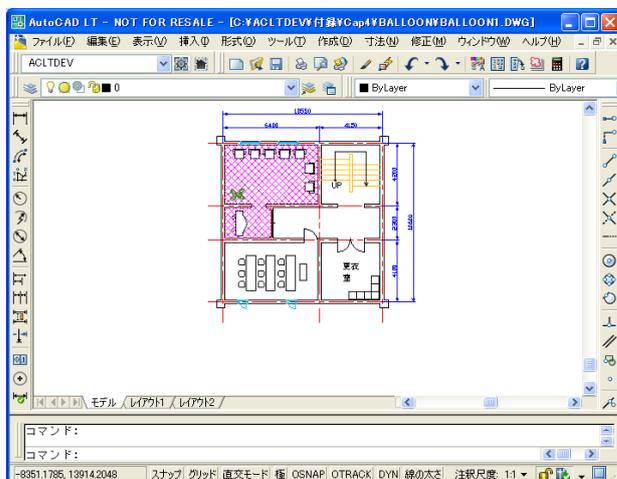


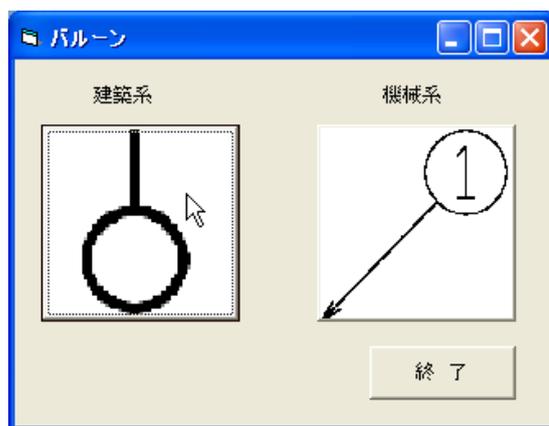
VB6 とリンクする

①Balloon.exe

Step1—AutoCAD LT を起動し、balloon1.dwg を開きます。(通り心のある建築図面を用意します。)

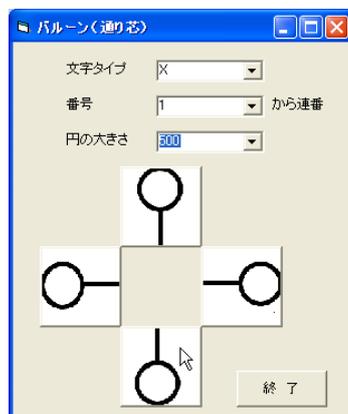


Step2—balloon.exe を起動し、[建築系]のボタン（左側）を押します。

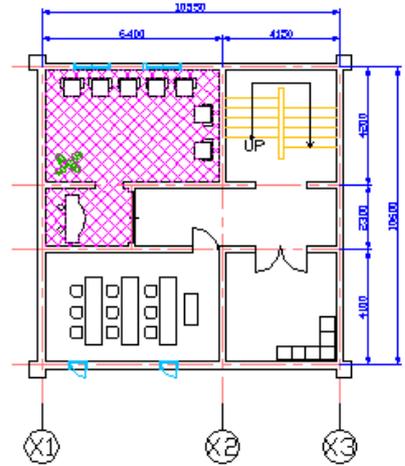
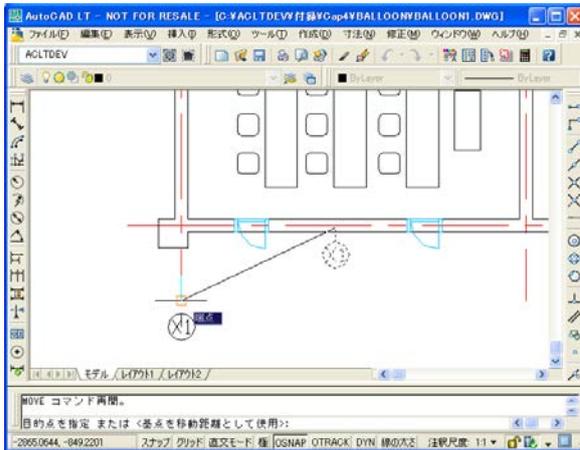


Step3—[バルーン(通り心)]ダイアログの[文字タイプ]に[X]を、[番号]に[1]を選択し、[円の大きさ]に[500]と入力します。(1/100 の作図では、5 ミリの大きさになります。)

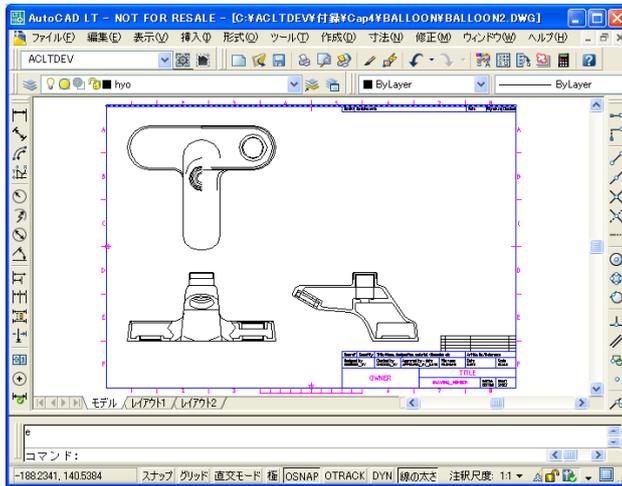
ダイアログ下側のバルーンのタイプを選び、ボタンを押します。



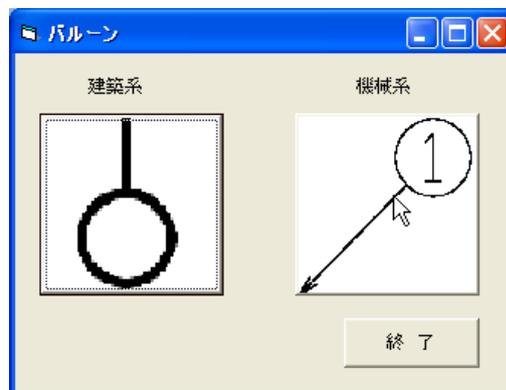
Step4—AutoCAD LT の画面に切り替わったら、マウスで左下の通り心の端点を指示します。
右図のように、通り心符号が簡単に作図できます。



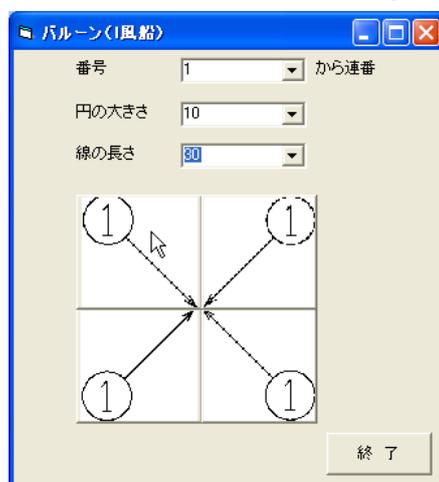
Step5—AutoCAD LT を起動し、balloon2.dwg を開きます。



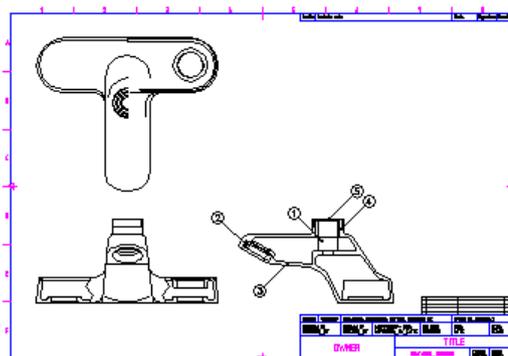
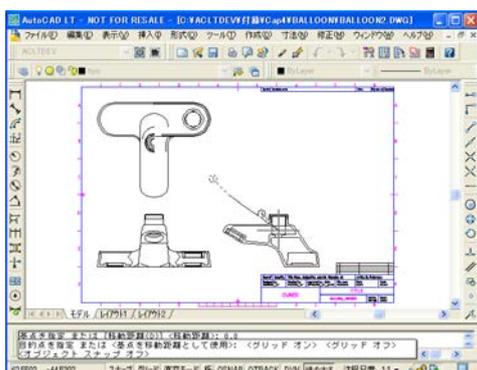
Step6—balloon.exe を起動し、[機械系]のボタン（右側）を押します。



Step7-[バルーン(風船)]ダイアログの[番号]に「1」を、[円の大きさ]に「10」を選択し、[線の長さ]に「30」を入力します。(1/1の作図で、10ミリの大きさになります。)
ダイアログの左上のバルーンのボタンを押します。

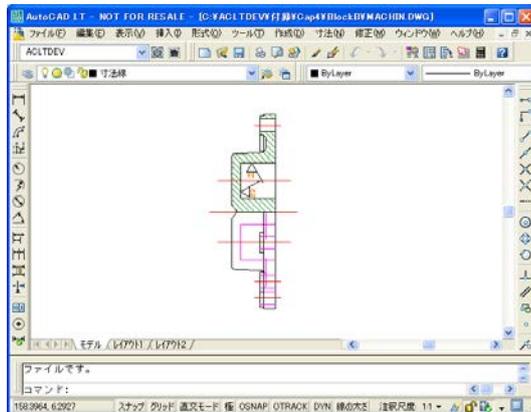


Step8-AutoCAD LT の画面に切り替わったら、マウスで右側面図の位置を指示します。
右図のように、同様の操作で他のバルーンも簡単に作図できます。



②BlockB.exe

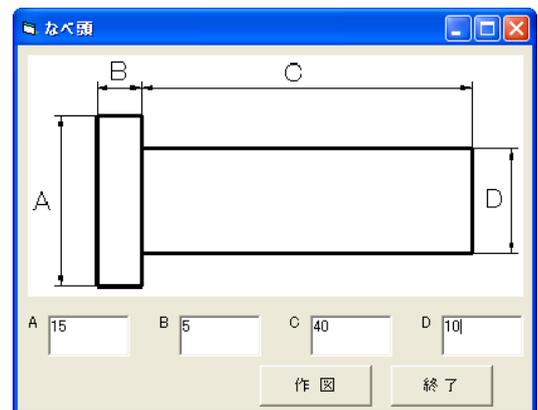
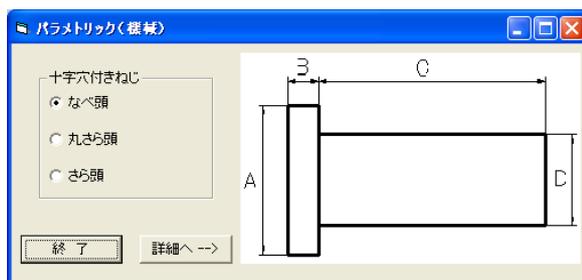
Step1—AutoCAD LT を起動し、machin.dwg を開きます。



Step2—BlockB.exe を起動します。

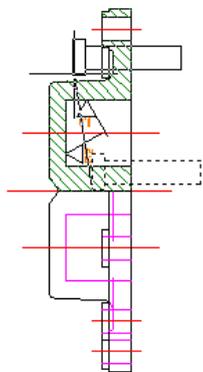
[なべ頭]を選択し、[詳細へ→]のボタンを押します。

A から D までの、4つのテキストボックスに 数値を入力します。



Step3—[作図]ボタンを押すと、AutoCAD LT の画面に切り替わります。

ネジが移動の状態になっていますので、適当な位置を指示します。



Step4－他の2つのネジも同様の処理で、作図できます。

